



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第368号

(創刊 1988.12.14)

2020.05.03.

コロナで工事一時中止！

このコロナ騒ぎの中、先日 NEXCO 横浜工事事務所の佐藤工務課長に確認しました。コロナ対応について工事受注者からの要請があり、各地区にばらつきがあるが4月第4週中に NEXCO エリアの全面工事中止を発表するよう所内で調整中であるとのこと。

連協からも意見として、張り紙だけではなく地区毎に町会長レベルで説明すべきとリコメンドし、NEXCO も受け入れました。先の事業評価監視委員長の独自の付帯意見(住民の安全の確保を最優先とすべき)を重視すべきであると付け加えたところであり、住民への説明が事業推進の第一歩であることの再確認を求めました。

国側も横浜国道事務所の大谷計画課長によると、受注者毎の意見を重視してそれを受け入れる方向で地区ごとに工事を中止するとのことでした。

現在の緊急事態宣言の期限 5/6 までの中止でありその後の延長があればそれに追従する方向です。(会長 比留間)

いたち川護岸工事のその後

2月号(365号)でお知らせした題記の危険工事に関する説明会は当方の要請を受け入れ、町会単位だけではなく一般近隣住民を対象に100人以上が参加できる工事事務所の大会議室を会場として再設定し、2月22日に計画された。しかし市側からのコロナ対策要請で急遽中止の決定となり、知らずに集まった参加者で門前は混乱した。

なお別井笠間工事長に、いたち川護岸工事に関する横浜市側からの情報不足がこの危険工事の原因であり、過去の入手資料についてまとめて報告するよう現状の工事計画に至るまでの資料を請求中です。

その後、再三の請求に応じて別井工事長と佐藤工務課長から以下のような途中経過報告がありました。

- ①H20.7: 横浜市から入手した図面において、杭の存在は想定可能だった。
- ②H29.8: 杭とシールドの正確な離隔を把握するための調査
- ③H30.3: 調査完了に伴い杭との正確な離隔を把握し(干渉が明らか)、その対策・協議について事前協議を始めた。

②、③から当時杭を想定していなかったと思っていたが、①のとおり事前に横浜市から入手していた図面を再度確認したら杭の存在は想定可能で、事業者としてはシールドを掘る前に杭との離隔を調査する予定でした。

横環南工事の最大のキーポイントである笠間十字路でのシールドトンネルと幹線下水道との離隔 30cm 問題よりひどく、トンネルがいたち川護岸杭に接触する可能性があるという状況を説明せずに資料を渡し、NEXCO もその意識を持たず、工事計画してから気が付いたという杜撰さを示すもので大変危惧される工事状況であります。

(事務局)

上郷公田線の計画変更要求に対する 横浜市の回答を受領

3月24日、神奈川共同行動に際し事業者による南線・上郷公田線の計画・工事の以下の4項目の変更要求の要請書を提出していました。

- ① 換気所への脱硝装置設置
- ② 桂台トンネル上り線非常駐車帯位置の変更(下り線の対面位置)
- ③ 湘南桂台地区の掘割化
- ④ 桂台西地区の防音壁設置(裏面へ)

【横浜市の回答（要旨）】（4月7日付）

「上郷公田線に係る要求については、今後開催される「質問・回答会議」でお答えしていくこと、また、引き続き自治会を通じて話し合いを継続していきたいと考えております」

住宅地内に設置される南線アクセス道路の上郷公田線による沿線住民への生活環境破壊防止は必須であり、引き続き要求を行っていく。（事務局長 長谷川誠二）

道路全国連反対運動 45 年史の 発行に向けて

道路全国連が今年 45 周年を迎えるにあたり記念誌を発行することになりました。道路公害反対運動全国連絡会議として発足した 10 年目に「道路の上に緑地ができた」を出版しました。25 周年には「くるま優先から人間優先の道路へ」として 25 年のあゆみと提言を運動の手引きとして出版し、35 周年には「くるま依存社会からの転換を」と題して団体名も道路住民運動全国連絡会と名を変えて出版しました。

これまでの記念誌は全国各地の道路反対運動の団体がそれぞれの歴史と主張をまとめたものでした。この反省も込めて今年の 11 月に開催する全国道路集会での発行を目指して、一般書店でも一般の方々に購入して頂けるような書物として企画しました。

そのため出版社も変えてこのような問題の編集に明るい緑風出版にお願いして、この 1 月から何回か編集会議をもち 45 周年誌は言わば道路運動の総括ともいえる道路事業の総まとめになります。

全国各団体の一員である連協も 30 年以上の活動をこの記念誌に残すべく、5 回の事業評価をとおして道路の供用を遅らせた運動の内容と 6 年にもわたる公害調停で環境影響評価の手法を見直させた 2 点について執筆することになりました。

（編集委員 比留間）

連協活動とコロナ

4 月 16 日の非常事態宣言のあと連協の主要な会議（全体会議、拡大三役会議、環境部会等）は 3 月の活動を以って中止しています。しかし活動の重要性に鑑みメール等の対話手段を以って絶えず正常に続けており、新聞発行も外部印刷委託に頼って続けています。また外部活動も事業者との質問回答会議や 45 回毎年続行している連協も参加している公害被害者総行動も延期の方向となりました。

また公共事業改革市民会議やその調査会も延期の連続となっています。（事務局）

対外活動報告

- 04/06 緊急事態宣言が出される見通しから 4 月 22 日予定の質問・回答会議延期を事業者に申し入れ
- 04/08 神奈川共同行動（3/24）における計画変更要求に対する横浜市分の回答書受領

後書

新型コロナ問題で、皆様も心身ともにお疲れのことと存じます。未だに収束は見えませんが、このゴールデンウィークの外出程度如何により今後の経過も違ってくる感じです。

高齢者や基礎疾患のある方の死亡はもちろん問題ですが、これからは若い保因者（自覚症状は無いがコロナウイルスを持っている人）の動向が最も問題になるでしょう。

残念ながら連協構成員は、持病持ちの高齢者ばかりです。もうしばらく自己隔離に努めましょう。

ただ、散歩を含め積極的な運動をしないと筋力・体力が落ちて、コロナ収束の頃には体がぼろぼろになる可能性もあります。

皆さん、体を動かしましょう！！

（和田編集長）